

「自然は美しい それに気づく心が美しい」

丸山綱男さん講演会要旨

2018年5月20日 不動岡公民館にて



1 自然（じねん・しぜん）

自然薯は「じねんじょ」と読みます。「しぜん」と「じねん」には、概念として西洋的・東洋的の違いがありますが、「じねん」は「自ずから然らしむ」即ち外部からの影響ではなく自ずからそうである」という意味で、ありのままにまかせること（東洋的）。一方、「しぜん」は人間が自然を制御すべきととらえ、人間中心の考え方です。（西洋的）

ゴッホは「美しい景色を探すな。景色の中に美しいものを見つけるんだ」と述べました。美しいときれいには違いがありますが、心を打つ内面的な好ましさ（美しい）と、外面的な清潔さ・鮮やかさ（きれい）の違いでありましょうか？

2 花はなぜ美しいのか

美輪明宏氏「花は見る人を癒すが、自分は何も求めない。だから美しいのです。」それは無償の愛

3 美しいと感じられる心を見つけるには

中国儒教の経書「大学」から、「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味わいを知らず」

子どもが、美しいものを受け止めるには、視点をもって自然を見つめ、追い求める心を育むことが大切なことになります。

4 子どもに感動をもたらし、意欲を育むきっかけとは

子どもが懸命に五感を働かせ、子どもが持っている経験・想い・願い等と、新しい事象比較し、考えていたこととは少し違っているズレを受け止める。これが、感動を求める出発点となります。

それは、まったく新しいもの、未知なものに出会わしたらダメです。子どもが、自身の経験から違い（ズレ）が確認でき、やや説明がつくが、全部は説明が付かないような新しい事象との出会い。きつこうかも知れない、確かめてみたいと思えるような出会いから、ものを見る新たな視点を獲得していけること、そのような経験を出来ることが大切だと思います。

5 人が生きていく上で考え始める動機→ スリーステップ

①比較する ②違いに気付く ③ちょっと関心を持つ —ということです。このためには、いささか工夫や準備が必要になります。ここでは例として、皆さん（注：参加者）に、工作版の上に油粘土を使って、「中国から見た日本」という題で表現を試みていただくことにしましょう。（約 30 分）

6 中国大陸から見た美しい日本列島の製作（粘土を使って）

さて、いろいろな視点からの表現がみられて、皆さんで楽しく過ごすことができました。中国の人はこれが富士山だと分かるかな？九州の田舎にはいったことがあるぞ…、青森のあたりはどうなっていたかな？—やりながら、どんどん意欲や疑問が膨らんでいきます。

でも、この題を中学生くらいの年齢の子に、例えば、紙に描かせる方法でやってもらおうとすると、まるでうまくいきません。描くという方法では失敗を恐れて、「固まって」しまうのです。ここで採用した素材（方法）が、いくらでもやり直せる粘土だということで、きわめて自由な試みと表現が可能になっていることに気付いてほしいと思います。

このように、興味を持ち、自在に表現を試み、やり直し、より納得のいくように仕上げていく。また、いろいろな人の作品に刺激を受けることができ、次々と疑問がわき、課題も見えてくる—地図を見て、確かめてみたくなりましたよね。

このような体験の中から、子どもさんたちが自ら、学習の意欲や将来の希望を育んでいくって欲しいと願っています。（了）